

市役所のエコ的取り組みも評価するが  
環境都市を謳うためにもゴミ問題解決を！

京都議定書などで、京都が環境保護に関する注目を浴びているこのご時世。京都市は2003年度に購入した消耗品や備品のうち、環境負荷の少ないエコ製品が占める割合が80%に達し、さらに京都市役所本庁舎から排出したゴミ削減にも成功したと発表した。これらは2000年度に策定した「新市役所エコオフィスプラン」、再生紙や省エネ用品などの購入を推奨する「グリーン調達推進方針」にのっとったものなのだそう。

その一方、炊事・食品関連のゴミの排出量が15%増加。これは市役所職員の弁当がらなどの持ち込みゴミが増えたためと考えられている。新たに購入する備品をエコ商品や省エネ製品にするのは比較的簡単。数字上では環境への取り組みが進んだように見えるが、個人の意識ではあまり変化していないどころか、むしろ逆に環境への意識が低下しているではないか。いまだ京都の家庭ゴミの分別は他の地方公共団体に遠く及んでいない。市役所の新規購入備品をエコ製品に切り替えたからといって、「京都＝環境にやさしいまち」とは言えないと思うのだが…？

いまだどきどきの歴史

一番新しい日本の一ページ

荒れる成人式

荒れる成人式を嘆くばかりではなく  
モラトリアム世代の成人式を考えよう

君もオレ流だろ？



いきなりハンドフォン奪い  
他人のPCを覗き込むオジサン  
とりあえず許す若者  
さあ、どっちが大人？

少々廻った話になるが、今年も日本各地で新成人が騒動を起こした。それを受けて最近では「成人式を開催する意味がない」という声も増え始めている。かたや、東京ディズニーランドやしまえんで成人式を開催する地方公共団体や、成人式の企画運営そのものを新成人に委ねる地方公共団体も増加。これでは成人式というより、20歳の子どもを一堂に集めたお誕生日会みたいだが、日本人の精神的成熟は遅いんだから仕方ない。「京の大人の英知注入マガジン」と謳っている弊誌も、去年から京都市の成人式に関わらせてもらっているが、ニートの増加などが物語るように、本当の意味での大人になる年齢は、自分も含めて20歳以降の人が圧倒的に多い。人間は仕事をしたり、家庭を持ったりして、徐々に大人へと成長していくもの。成人式でいきなり大人の自覚を促してもなかなか受け入れられなくて当然なのだ。そういう温かい心が前提にある成人式なら、荒れないようになるのではないだろうか。

杉花粉の飛散量  
今年は何年かの20倍!!

森林保護を考えれば  
こんな我慢もエコ活動…



京の市民活動

何かと伝統行事の多い京都の市民活動  
今後の存続のために行政の支援拡充求む

地蔵盆や運動会、お千度などの伝統行事や町内活動がいまだ市民の自発的行動によって活発に行われているのは、京都の大きな魅力のひとつ。このほど京都市が町内会やボランティアといった市民活動に関するアンケートを行ったところ、なんと7割近くの成人市民が何らかの市民活動の経験があることがわかった。内訳は自治会や町内会などの地域活動が最も多く、中でも祭りや伝統行事などの地域行事、交通安全などの「生活安全・防災」が目立った。筆者も自治会行事に参加したり、役を務めたことがあり、京都市消防局の「応急手当普及員」でもある。それほど京都市民の市民活動参加は一般的なのだ。

一方で「時間的余裕がない」「リーダーや後継者が育たない」「情報や相談窓口が少ない」といった声も寄せられている。これからも市民が自発的に活動に参加し、伝統行事を守っていけるよう、行政が市民活動の状況をよりの確に把握し、支援を行って欲しいものである。

これも市民活動!!



文◎大塚 祐希

京都で活動するライター集団・大塚祐希事務所CEO。昨年のイスラエル滞在以来、異文化を紹介するTEXTREAM PROJECTを始動。20カ国に及ぶ人々とネットワークを構築し、ボーダレスな活躍を目指す。  
HP●<http://www1.ocn.ne.jp/tsukapon/>

イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP●<http://www.d1.dion.ne.jp/ryoguchi>

